

コロナ後の大学教育 ～大学教育のブレンディッド化の展望と課題～

<趣旨>

2020年のコロナ禍で、世界中で急速にオンライン授業が実施されることになりました。オンライン授業では、これまでの対面授業で当たり前であったface-to-faceのやりとりや、実体験を伴った指導できなくなります。その反面、学生にとってはいつでもどこでも何度でも授業を受けることができたり、コミュニケーションツールを用いて、授業全体の流れを妨げることなく、教師に直接質問できたりするという利点もあります。このように、これまでとは異なる環境での授業の実施によって、授業に対する価値観や意識の変化が、教師にとっても学生にとっても起こりつつあります。今後は新しい環境で生まれた意識の変化をふまえ、オンライン授業と対面授業のそれぞれの利点を生かした新しいカリキュラムの設計が必要となります。

本シンポジウムでは、大学教育における対面授業とオンライン授業の役割を明らかにし、大学教育のブレンディッド化の在り方と、それに向けた課題について議論します。

登壇者略歴等

■ **登壇者：河本 達毅**（文部科学省高等教育局専門教育課科学・技術教育係長）

登壇者略歴等：

東京大学大学院教育学研究科（修士）。私立大学にてカリキュラム編成、履修管理、IR等に従事した後、2014年度より文部科学省高等教育局。大学振興課にてFD・SD、3つのポリシー、国公私補助金（GP）総括、大学教育再生加速プログラム（AP）を担当したのち、2019年4月より現職。理工系人材育成、STEAM教育、大学教育のデジタルライゼーション等に従事。

■ **登壇者：埴 雅典**（山梨大学大学院総合研究部工学域・教授）

登壇者略歴等：

1990年 埼玉大学工学部電子工学科卒 1995年 同 大学院博士課程了。博士（学術）。1995

年 山梨大学助手, 2002 年 助教授, 2004 年 准教授, 2014 年 教授, 2015 年 大学教育センター長, 2017 年 学長補佐 2019 年電気電子工学科長. 1998 年 電子情報通信学会 学術奨励賞, 2009 年 Asia-Pacific Communication Conference 2009 Best Paper Award, 2018 年 電子情報通信学会 教育優秀賞受賞. 電子情報通信学会, IEEE (米国電気学会), OSA (米国光学会), 日本教育工学会各会員. 光ファイバ通信, 光信号処理技術の研究に従事するかたわら, 2012 年より反転授業を核にしたアクティブ・ラーニングの大学教育への導入, 教育の内部質保証システムの構築, 数理・データサイエンス教育強化, 遠隔授業の全学展開に取り組んでいる一工学系教員.

■ **登壇者** : 村上 正行 (大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部・教授)

登壇者略歴等 :

1997 年京都大学総合人間学部卒業, 2002 年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程指導認定退学. 博士 (情報学). 2002 年京都外国語大学外国語学部講師, マルチメディア教育研究センター准教授, 教授などを経て, 2019 年より現職. 教育システム情報学会理事, 日本教育工学会理事, 日本教育メディア学会理事, 大学教育学会評議員など. 教育工学, 大学教育学を専門とし, 大学教育を対象にした教育データ分析, ICT を活用した教育, FD に関する研究などに従事.

■ **司会・コーディネータ** : 石井雅章 (神田外語大学言語メディア教育研究センター・准教授), 小川修史 (兵庫教育大学学校教育研究科・准教授), 小尻智子 (関西大学システム理工学部・教授), 西端律子 (畿央大学教育学部・教授)